

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 岩手県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	自他の大切さを認め、行動できる生徒の育成 ～「協力的・参加的・体験的な学習」を通して～
----------	--

○調査研究のテーマを設定した目的

東日本大震災津波の被災地である当県は、郷土を愛し、復興・発展を支える人材の育成を目指し、全県をあげて「いわての復興教育」に取り組んでいる。その中には、「かけがえのない生命」、「価値ある自分」、「家族のきずな」、「仲間や地域の人々のつながり」など、人権教育に関わる内容が多く示されている。岩手県教育振興計画では、「自他の生命を大切にし、他者の人権を尊重する心の育成」を中核に据え、人権教育を推進している。

一方で、効率重視や自己責任といった風潮が強まる社会情勢等を背景に、ネット上での匿名による他者攻撃や仮想空間への逃避等の問題が表面化している。自己を否定しがちで、ストレス耐性の弱い生徒が少なくなく、当県においても同様の状況が散見される。

自他の生命を大切にし、他者の人権を尊重する心を育成する上で、自己有用感（自尊感情）を高めることは不可欠である。それを基盤に、人権及び人権擁護に関する知的理解を促し、人権感覚を醸成することにより、他者を自分同様にかげがえのない存在として受け入れることができるようになり、ひいては、人権が尊重される学校が実現するものと考えられる。

2年計画を想定している本研究は、岩手県学校教育指導指針における「人権教育の推進」及び「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」を踏まえ、自他の大切さを認め、行動できる生徒の育成を図るものである。日々の授業や特別活動等において、人権を意識した「協力的・参加的・体験的な学習」を展開し、生徒の自己有用感を高め、人権感覚を醸成すること、個別の人権課題について理解し考える学習を展開し、人権及び人権擁護に関する知的理解を促すことで、その実現を目指すこととする。

1年次となる令和6年度は、他者を受け入れる意識を醸成する上で欠かすことのできない、人権及び人権擁護に関する知的理解を深めることに重点を置く。人権教育の前提となる基本的な人権に加え、「アイヌの人々」を中心に、障害者・高齢者・外国人・女性・インターネットによる人権侵害・犯罪被害者等の個別の人権課題を通して、特に、マイノリティへの理解を深める。また、それを踏まえて「協力的・参加的・体験的な学習」を展開することで、自己有用感の向上及び人権感覚の醸成を目指すこととし、本テーマを設定した。

○調査研究の概要

本研究では、日々の授業や特別活動等に、人権を意識した協力的・参加的・体験的な学習を取り入れることにより、自他の大切さを認め、行動できる生徒の育成を目指す。特に、関係団体等と連携し、「アイヌの人々」を中心にマイノリティへの理解を促す学習を展開し、人権に関する知的理解を深め、人権感覚を醸成する。また、家庭へのアプローチを加え、生徒の生活基盤である、家庭の人権意識及び子育てに係る教育力の向上を目指す。

## 2. 基本情報

### 研究指定校の概要

○学校名

野田村立野田中学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

5学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数

全児童数：83人（令和6年12月12日現在）

○URL

<https://www.vill.noda.iwate.jp/soshiki/kyoikuiinkaijimukyoku/gakkokyoikuhan/shochugakko/321.html>

○指定理由

岩手県北沿岸地域に位置する野田村の「野田」の由来には諸説あるが、その1つが、湾曲した風の良海や湿地、湿田といった意味のアイヌ語が転化したもの、というものである。村で最も標高の高い霊山である和佐羅比山（男和佐羅比山、女和佐羅比山）、村内を流れる安家川も同様に、その名称はアイヌ語に由来するという説があるように、県内の他の地域と比べて、野田村は、アイヌの人々の影響が色濃い地域とされてきた。一方で、児童生徒にその意識は乏しく、その関わりを踏まえてアイヌの人々の権利が脅かされる状況について学んだり、それをとおして人権について考えたりする学習が実施されてこなかったのが実情である。

一方で、東日本大震災津波からの復興・発展を支える人材の育成を目指す、当県独自の教育活動である「いわての復興教育」に、村を挙げて熱心に取り組んできた。今年度は、村独自の新たな継続芸能を生み出し、小中連携で復興教育の更なる充実を図ることをねらいとし、村教委が主導して、被災の翌年に野田中学校で開始した創作太鼓の取組を野田小学校に広げる取組を行っている。また、野田中学校は、昨年度の3年生が最大クラスの津波からの避難経路を記した「逃げ地図」を作成し、その活動を現3年生が引継ぎ、タブレットから携帯電話などへ地図データ送信することを計画するなど、家庭や地域と連携した取組を精力的に実施している。こうした教育活動の成果もあり、生徒の自己有用感は比較的高い数値を示しているものの、集団に適応できなかつたり、人間関係を起因とする課題を抱えたりする生徒が見られるなど、解決が求められる課題が散見される現状である。

人権を意識した協力的・参加的・体験的な学習を取り入れること、「アイヌの人々」を中心にマイノリティへの理解を促す学習を展開すること、家庭へのアプローチを加えることをとおして自己有用感を高め、自他の大切さを認め、行動できる生徒の育成を目指すにあたり、上記を踏まえ、その素地があり、事業実施の必然性が他と比べて極めて高いことから、研究指定校として、野田村立野田中学校を選定した。

### 3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

①子供	○
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	◎
⑦外国人	○
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	○
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他（自己肯定感等）	○

## 4. 調査研究の内容等

### ○調査研究の内容

本校では、特別支援学級（2学級5名）に加え、通常学級における個の特性に応じたきめ細やかな指導が必要な要観察生徒、家庭内不和による面前DV等の児童相談所経過観察中の生徒、集団不適応等、多様な生徒が存在する。人間関係を起因とする課題を抱える場合が多くみられること、自己有用感の低い生徒が少なくない（20.9%）ことから、人権が尊重される学校づくりを通して、自他の大切さを認め、人権を意識した行動ができる生徒の育成を目指した。

#### 〔 仮 説 〕

岩手県学校教育指導指針「人権教育の推進」を意図的・計画的に全教育活動に位置づけ、日々の授業や特別活動等で人権を意識した協力的・参加的・体験的な学習を実践することで、自他の大切さを認め、人権を意識した行動ができる生徒が育成できるであろう。

生徒たちが多様な仲間と学校をつくっていくために必要な人権意識を醸成するため、日々の授業や特別活動等において、人権を意識した協力的・参加的・体験的な学習を展開した。また、自己有用感を高め、自他ともにかげがえのない存在として認め合うことができるよう、助産師の講話や心理カウンセラーによる心理学的手法による指導を行った。さらに、生徒自身の人権及び人権擁護に関する知的理解を促すために、関係団体及び施設等と連携し、アイヌの人々への差別をはじめとする様々な個別的な人権課題について知る機会を設定した。

調査研究の実施に当たっては、教職員支援機構が実施する「人権教育推進研修」を指定校の教員が受講し、実践の充実を図った。また、県教育委員会指導主事が野田村教育委員会指導主事とともに指定校を定期的に訪問し、人権教育の視点を大切に授業や様々な取組への助言、事業の進捗状況の確認等、関係者間の共通理解を図りながら事業を推進した。

### ○実施方法

計画的・組織的なカリキュラム・マネジメントを推進し、以下を実施した。

#### ア 人権を意識した教育活動の実施

- (ア) 「課題解決型の授業」による、主体的・対話的で深い学びの授業実践
- (イ) 「生徒指導の実践上の視点」・「カウンセリングマインド」による生徒指導
- (ウ) 人権尊重の視点に立った校内環境・教室環境づくり
- (エ) よりよい人間関係を目指す生徒会活動（いじめ・情報モラルに係る取組を通して、野田中学校人権宣言づくり）
- (オ) 縦割り交流による互いを認め合う生徒会活動（けやきの取り組み）

イ 人権が尊重される協力的・参加的・体験的な学習（授業）

（ア）創作太鼓による自ら考え、協働的に表現する活動

（イ）総合的な学習の時間を中心とする「知る」「発信する」「創る」地域学習

（ウ）職場体験や様々な立場の人による進路学習講演会を通じたキャリア学習

ウ 人権課題に係る講演会

（ア）「基本的人権」を学ぶ講演会（弁護士：全学年）

（イ）「アイヌの人々」を学ぶ講演会（アイヌ文化アドバイザー：全学年）

（ウ）「自尊感情」を高める講演会（助産師：2年生、心理カウンセラー：全学年）

（エ）「情報モラル」を学ぶ講演会（警察署：全学年）

（オ）「外国人」に関する人権課題を学ぶ講演会（岩手県国際交流協会：全学年）

（カ）「犯罪被害者等」による講演会（交通事故被害者遺族：全学年）

エ 人権を意識した地域連携の実践

（ア）「孫世代の認知症講座（村保健福祉）」等と連携した学区内高齢者との交流

（イ）「障害者地域活動支援センター」と連携した交流

（ウ）授業及び生徒会活動の支援等による地域人材の活用

オ 全国人権作文コンテストへの応募

本事業での学びを踏まえて応募し、人権意識のさらなる向上を目指した。

・令和6年度：うち1名が県北地区優秀賞を受賞

○検証・評価・改善・普及

ア 検証・評価

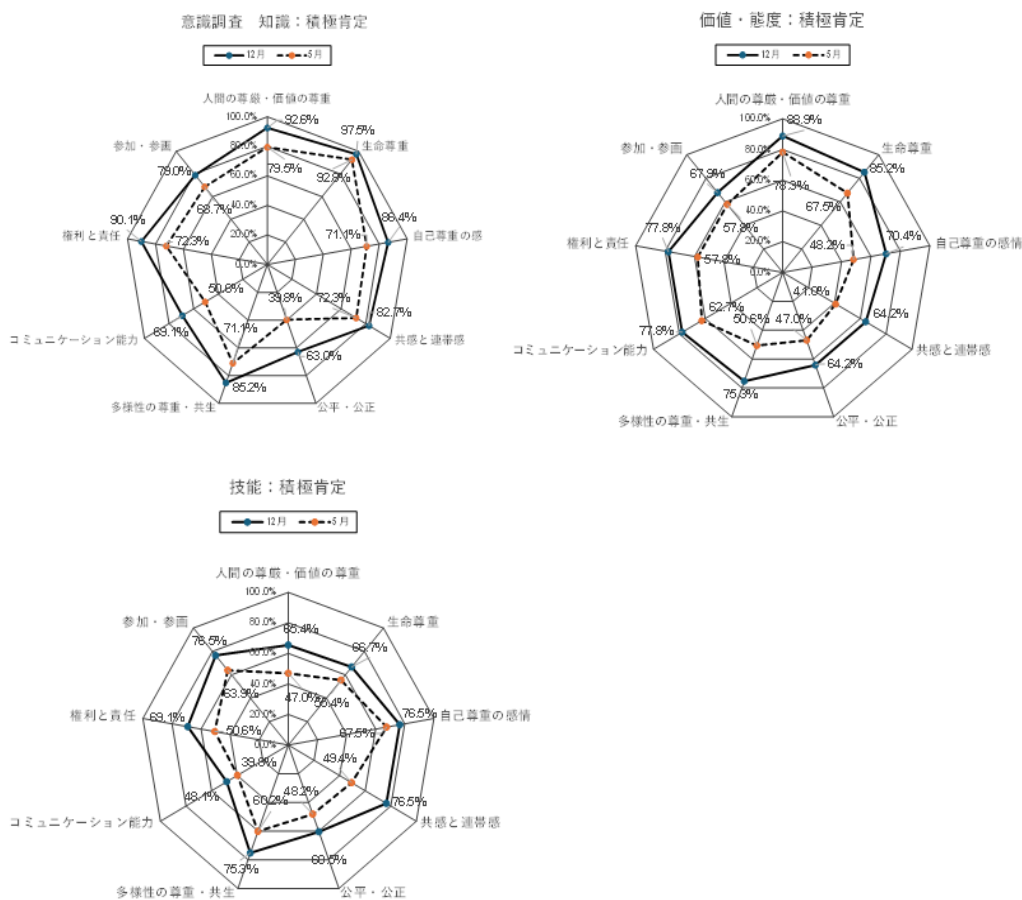
（ア）生徒対象の人権アンケート

「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」をもとに埼玉県教育委員会が作成した“人権感覚育成のための9つの視点”を参考にしたアンケート調査を、事前（5月）及び事後（12月）に実施し、全校生徒の人権に関する意識の育成状況を客観的な数字として見取った。また、講演ごとに、生徒の変容を見取る調査を行った。

○アンケート調査【5月回答数：83名・12月回答数：81名】

5月と12月の意識調査を比較すると、いずれの観点・項目でも積極肯定（そう思う）の数値の伸びが見られたことから、本事業を通して人権感覚の育成が図られたものと考えられる。

一方で、「知識」と比較して、「価値・態度」・「技能」、特に「技能」が低い傾向となっている。また、三観点ともに70%を下回った項目は「公平・公正」、二観点で70パーセントを下回った項目は「コミュニケーション能力」であった。特に、「技能」の観点の「コミュニケーション能力」の項目が、12月でも48.1%と低い結果となった。



○講演ごとの生徒の変容に関する調査【肯定的回答】

各講演会とも、実施前と実施後では理解に関する質問に大きな変容が見られ、本事業を通して個別の人権課題への知的理解が深まったと考えられる。人との出会いは何にも代え難い財産となった。

実施月	質問項目	実施前	実施後
6月	わたしは犯罪被害者等の人権について理解しています。	53.2%	92.2%
8月	わたしは基本的人権について理解しています。	29.7%	91.9%
10月	わたしはアイヌの人々とその人権について理解しています。	32.5%	93.5%
11月	私は日本に住む外国人とその人権について理解しています。	28.8%	100%

(イ) 生徒会活動の各種総括

生徒会活動として実施したいじめや情報モラルに係る取組の評価等は、生徒会執行部発行の広報等により生徒に周知したほか、生徒総会等において全校で審議・報告した。

今年度は野田中学校「人権宣言」を作成し、後期生徒総会で採択した。実施前後のアンケートを行い、それを基にした取組の総括を、集会や生徒会執行部発行

の広報等で行った。

また、生徒相互によさを見つけ合う「けや (Care [気遣い・思いやる] き[木])」の取組を実施し、作品を廊下に掲示することで、自己肯定感の向上を図った。

(ウ) 地域学校協働活動推進本部及び広報活動

年度初めに、学校経営方針とともに本研究計画を地域学校協働活動推進本部に提案し、意見をいただいた。さらに、本研究の推進にあたって協力を得たほか、年度末には成果と課題を示して評価をいただいた。また、本研究の取組、人権アンケートの結果等は、校報を通じて保護者及び地域に対して周知し、人権意識の普及啓発にあたった。

(エ) 生活アンケート及びいじめ・虐待に係る調査

生徒指導部が例年実施している、生徒の生活実態把握のための「生活アンケート」を毎学期実施することで、生徒の異変の対する早期発見、早期対応に努めた。また、次の項目について事業実施後の状況の比較は以下の通りとなった。

○令和5年度虐待情報調査 (令和6年1月現在)

面前DV事案：1件

令和6年度虐待情報調査 (令和7年1月現在)

虐待情報：0件

○令和5年度いじめ状況報告 (令和6年1月現在)

いじめ認知件数：25件 暴力行為発生件数：4件

令和6年度いじめ状況報告 (令和7年1月現在)

いじめ認知件数：23件 暴力行為発生件数：6件

○野田中学校「生徒アンケート」評価 (出典：全国学調、岩手県学調、岩手県新入生学調)

指 標	R 4	R 5	R 6
将来の夢や希望を持っている	68.1%	78.0%	67.9%
自分には良いところがあると思っている	68.1%	79.1%	82.7%

イ 改善 (次年度の取組)

(ア) アンケート調査の結果から、「知識」と比較して、「価値・態度」・「技能」、特に「技能」が低い傾向となっていることがわかった。その中でも、複数の観点で低い数値となった項目は「公平・公正」、「コミュニケーション能力」であった。特に、「技能」の観点の「コミュニケーション能力」の項目が、12月でも48.1%と低い結果となった。

そこで、次年度の方向性として、「知識」を身に付けさせつつ、「価値・態度」や「技能」、つまり人権感覚の育成に一層の重点を置くこととする。特にも、「公平・公正」「コミュニケーション能力」の項目に関する指導に重点を置くこととする。

具体的には、「公平・公正」の育成に向けて、基本的人権 (特に「公正・公平」に重点を置いて) の講演を、人権教育に精通した弁護士を招いて実施する。また、

「コミュニケーション能力」の育成に向けて、テレビ局のアナウンサーを招いてコミュニケーション講座を実施する。

今年度実施していない、「性的指向、性自認」・「同和問題」などの個別の人権課題についても取り組み、様々な視点から学習させたい。

(イ) 生徒会による「人権宣言」の取組を軸に、学校生活の向上やいじめ撲滅、ボランティアなどに係る自治活動の中で、人権教育を継続して推進する。

(ウ) 「生活アンケート」「まなびフェスト」等による生徒の実態把握を継続し、適宜改善に努めるとともに、人権意識の向上を図る。

#### ウ 普及

「令和6年度人権教育啓発リーフレット『私も大切、みんなも大切』」の発行  
野田中学校における取組を実践事例として掲載した上記リーフレットを1,200部発行し、県内各小・中・義務教育・高等学校、教育関係機関、法務局等に配布することで、広く周知・啓発を図る。また、県教育委員会ホームページにも掲載し、一般にも周知・啓発を図る。その際、人権教育に係る今日的な動向についての情報提供等も行う。

## 5. 人権教育にかかる年間計画

令和6年度 野田中学校 人権教育 年間指導計画 <全体>												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式 修学旅行	体育祭 地区遠征帰郷	地区中総体 救命救急講習	宿泊研修・遠足 防災運動会	始業式 地区帰郷	地区新人大会	文化祭 特支発表会	職場体験 認知症講座	クリスマス コンサート	始業式	思春期講演会 新入学校説明会	修了式 卒業式
本講プロジェクト (復興教育)	ソープン:学年の特を超えて、隔りを作り上げ、互いの良さを認め合う場を設定する。 制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	卒業生や地域人材による講演会を行い、「生き方」を学ぶ ①	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。	制作太鼓、ソープン、合唱:村のイベントや福祉祭り、文化祭等において、制作太鼓やソープン等を披露し、村の人々のために貢献する。
特別活動	人権尊重に関わる内容を踏まえ、学級目標を設定する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。
総合的な学習の時間	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。	制作太鼓、ソープン:意見を出し合いながら表現活動を創り上げ、地域に披露する。
道徳(重点)	人権感覚	集団生活の充実	権利と責任	生命の尊さ	社会奉仕 公共の精神	相互理解、寛容	礼儀	家族愛	国際理解	公平・公正	思いやり、感謝	個性の伸長
教科	国語	言葉の学習	言葉の力 (解釈する力)	人権作文	言葉の力 (伝え合う力)	言葉の力 (伝え合う力)	言葉の力 (伝え合う力)	言葉の力 (聞き、質問)	言葉の力 (伝え合う力)	言葉の力 (論理的な力)	言葉の力 (論理的な力)	言葉の力 (論理的な力)
	社会	近世の日本	近代日本									
	数学	具体的な数や統計を活用し、論理的思考、合理的な考え方を身に付け、自分で考え正しく判断する力を育てる。										
	理科	自然や人間、生活に関する科学的な現象の理解を通して、根拠に基づいて思考し、判断する力を育てる。										
	英語	難読者スポーツ	日本の伝統文化	社会問題		日本の文化	ガンディーの功績					世界の子どもたち
	音楽		合唱活動			アジアの民族の音楽	合唱活動					諸民族の音楽
	美術	描く(分かりやすく情報を伝える)										
	保健		異性の尊重				自己形成と心の健康					感染症について
	技家											家族との関わり
生徒会活動	全校生徒の一人一人が気持ちよく学校生活を送るために、意見を発しながら自治活動を展開させる。											
	あいさつ運動	震災のまわり		清掃奉仕強化	あいさつ運動	全校制作	清掃奉仕強化	あいさつ運動			合唱強化	兵庫県宮市交流
教員研修・取組	推進会議① 人権アンケート①	教職員研修会①	文科省研修会	推進会議②	教職員研修会②			推進会議③	教職員研修会③		推進会議④	

## 6. 推進体制 (都道府県・指定都市教育委員会を含む)

